

# えぬびい! Oh!

2018 夏  
Vol. 69



▶ 2P~3P

東日本大震災後の岩手におけるNPOの役割

寄稿 NPO 法人いわて連携復興センター 代表理事 葛巻 徹

▶ 4P~5P

「ごめん文化」を世界に発信

南国市の中心でごめんなさいを叫ぶ「ごめんな祭」

▶ 6P

聴覚障がい者のためのもう1つの手段！

要約筆記とは？

▶ 7P

「自分らしい生き方を考える」場、貸します！

~コリビングスペース OUCHI~

# 東日本大震災後の岩手におけるNPOの役割

寄稿 NPO法人いわて連携復興センター 代表理事 葛巻 徹くずまき とおる

NPO法施行から20年、今やNPOは日本社会にとってなくてはならないものになっています。

今回、東日本大震災からの復興に携わってきた、NPO法人いわて連携復興センターの葛巻徹代表理事に、「地震復興におけるNPOの役割について」というテーマで寄稿いただきました。

今後30年の間に80%以上の確率で起こると言われている南海大地震に向けて、我々高知人も震災時のNPOの役割について、今一度考えるきっかけにしたいと思います。  
(森岡)

東日本大震災から7年が経過しました。しかし、今年6月の段階でも岩手県の応急仮設住宅は未だ全ては解消されず、土地造成の遅れから、自主再建もできない方も多くいます。生活再建の遅れは、若者の流出を生み、元々高齢化率が高かった太平洋沿岸部に大きな影響が出ているのです。

こうした状況の中、震災後の課題解決を指して住民が主体的に活動をしている分野の一つがNPOです。私たち「いわて連携復興センター（以降「センター」）」が、岩手県のNPO活動の震災前と後について、発災後から3年間のNPO活動についてまとめた報告書をもとに、振り返ってみたいと思います。

## ■震災前

震災前の岩手県は、福祉分野とボランティアシップを中心とするNPOが多い地域でした。前任の増田知事の方針でNPO支援政策の一つとして、中間支援団体の設立に力を入れたこともあり、県内には震災前から15団体を超える中間支援団体がありました。

## ■震災後

センターは、震災前からあった中間支援団体のいくつかは、震災後復興支援のコーディネート上の必要性を感じて2011年4月に立ち上げた団体です。

実際に復興支援の活動を行うNPOを大きく分けると、次の表のような団体に分類されます。それぞれの地域の状況や、地域資源によってあるべき姿は変動するので、どの団体があれば良いという事は一概には言えませんが、大規模災害でのNPO活動を考える上ではこの3つの類型を意識する必要があります。

大規模災害時のNPO活動の3つの類型

①	県外から支援に入ってくれた団体（NGOや県外NPO）
②	県内でもともと活動している団体
③	県内で新たに出来た団体

災害予見の際、必要なものが地域になければ、地域外からの支援を想定する必要があります。

あります。しかし、震災当時、自治体職員や住民がそもそもNGOという存在を知らず、今回支援活動に入ってもらったまでの調整に多くの時間を要しました。

事前にそうした知識を持つ事は重要です。つまり、災害予見の際、必要なものが地域になければ、地域外からの支援を想定する必要があります。

さて、岩手県は、15,275 km<sup>2</sup>と高知県（7,103 km<sup>2</sup>）の倍以上の面積で、県央の北上山地を挟み、太平洋沿岸部と内陸部にまちが形成されています。例えば、内陸の盛岡市中部から、沿岸にまっすぐ進んだ宮古市中心部までは、車で2時間の距離にあるという地理的特性があります。

このため、東日本大震災では、内陸部には全く津波の被害がありませんでした。この内陸部の市町村からの支援は大きなもので、特に、遠野市、盛岡市、北上市は自らのノウハウを活かし制度活用を代行するといった得意分野を活かした特徴的な支援活動を行いました。

また、被災した行政も大きなダメージを受けたところでは、公共サービスを行政だけで担うことは不可能でした。東日本大震災では、県外のNPO、NGOだけでなく、それを見て可能性を感じた県内のNPO、そしてさらには現地にもとまなかったNPOなども多く誕生して、避難所運営や、子どもや高齢

者などの社会的弱者のケアなどを担ってき  
ました。

■これから

現在、緊急的な課題の解決による団体の終  
了の他に、課題はありながらも持続できな  
かった組織などが出てきています。

私たちには多くの課題がありますが、一番  
の課題は、ハードが復興した後発生する地  
域課題にどのように取り組んでいくかです。  
現在は市町によつては10倍に膨らんだ予算  
を、行政の応援職員や、東京の事業者など  
も協力してもらい執行し復興に向かってい  
ます。

しかし、復興工事が終わり、10年早く時間  
が進んでしまった被災地において、地域の課  
題は、行政だけでなく地域住民主体のNPO  
と一緒に活動して解決していく必要がありま  
す。その為には、公共施策の一環としてNP  
Oを応援し、一緒にステップアップしてい  
く事が必要なのですが、そうした取り組みはほ  
とんどみられません。行政と市民がどう歩ん  
で、何をゴールにするか。それは、大規模災  
害に関係なく、平時から備えておく必要があ  
ります。

更に、もっと重要なのは、私たち岩手のN  
POが社会的に信用される活動体になる必要  
があります。NPO活動の原動力は個人の想

いです。しかし、地域で共感を得て、活動  
資源を獲得し、活動を続けるためには、組  
織としての経営、戦略が必要です。このレ  
ベルへの成長をセンターは目指しています。  
高知の皆さん、将来の為のチャレンジを  
共にしていきましょう。



「3.11 いわてNPOの軌跡 - 東日本大震  
災における支援団体の取り組み -」  
(2015年いわて連携復興センター発行)



▲寄附募集セミナー(2017年1月19日)  
県外から、NPO活動のノウハウを得る  
セミナー

関係人口交流会 (2018年1月19日)



▲市町村を超えたエリアでのアイデア出し



▲共通テーマに基づいて、県内の団体での意見  
交換、交流の機会づくり



なんこくし

# 南国市の中心でごめんなさいを叫ぶ「ごめんな祭」

## 「ごめん文化」を世界に発信

高知県南国市後免町の『ごめん』というユニークな地名を全国に向けて発信することで地域活性化に繋げていくことを目的とした「ごめんな祭」。このイベントを主催しているごめんなさいプロジェクト実行委員会を取材してきた。

### ■ごめんなさいプロジェクトの誕生

南国市には、「ごめん」という地名がある。この「ごめん」という町を、全国にアピールすることで、南国市に来てもらい、地域を元気にさせることで南国市民も盛り上がるのではないかと考え、平成24年にプロジェクトチームが立ち上がった。

### ■何か面白いことがしたい！

結成当初は、三十代のメンバーが中心となり「吾<sup>ご</sup>岡山<sup>やま</sup>でごめんなさいを叫ぶのって面白くない？」という軽いノリから始まったそうだ。ほとんどのメンバーが初めての経験の中、それぞれが持つ知恵と力と人脈を発揮して、面白い発想を力<sup>ちから</sup>タチにしていくことができたと話してくれたのは発起人でもあり副実行委員長の山中良成<sup>やまなか よしなり</sup>さん（写真左）



平成27年5月31日に  
わびさけ  
「詫酒ごめんなさい」を披露

### ■理念とミッション

「ごめん」という町の地名を使ったお祭りやイベントをすることにより、自分達の生まれ育った南国市の魅力を、高知県内はじめ全国、世界に知ってもらうために、メンバーで考えた理念と3つのミッションを軸に日々活動している。

#### <理念>

「愛するまちを元気に！  
笑顔あふれる地域コミュニティを目指します。」

#### <3つのミッション>

1. 人との繋がりを大切に、自分の住むまちの魅力を次世代に継承する。
2. 南国市とあやまり文化を情報発信すると共に、新たな魅力を創造する。
3. やる気！元気！行動力！を持って、市民協働の先駆者になる。

### ■第1回ごめんな祭の開催

平成25年5月13日の母の日に第1回ごめんな祭が開催された。南国市にある吾岡山文化の森で特設ステージを作り、叫び台から思いっきり「ごめんなさい」を叫ぶお祭りとして、全国「ニューでも取り上げられた。当日受付を含め約40名の参加があり、子どもから大人まで幅広い年齢層の方が、思い思いの「ごめんなさい」を叫び、会場からは共感の笑いと拍手が沸き起こった。オープニングセレモニーでは、高知県知事のほか来賓祝辞の後に「ごめんなさい五ヶ条」も披露された。

### ■南国市吾岡山を謝罪の聖地と認定

ごめんな祭の会場である吾岡山を全国でいち早く、「謝罪の聖地」として認定していただき、ひいては観光マップに掲載したいと平成25年6月に南国市議会に提案。実行委員の想いが伝わった。市長から認定書をいただくことができた。これを機に、「ごめん文化」を全国に発信すべく「謝罪の聖地」として展開している。



吾岡山文化の森

太平洋が一望でき、近くを飛来する旅客機や空港発着の様子も眼下に見られる。天然芝のサッカー場や遊具のある子どもの広場は親子連れに大人気。





新鮮な野菜が飛ぶように売れた軽トラ市



短冊を読み上げながら火にくべた

## ■商品開発

香南市赤岡町の高木酒造とコラボして、【**詫酒** ごめんなさい】というお酒を造った。ラベルや箱の文字は、メンバーが書きデザインもした。ポスターもメンバーがモデルになり、撮影から編集まで自分達で行った。



## ■ごめん野菜プロジェクト

農業を営むメンバーが3人おり、様々な野菜を作っている。そこで、ごめん野菜プロジェクトを立ち上げ、ごめん商店街で行われている軽トラ市へ出店したり、茄子・カリフラワーの収穫体験も行った。また、メンバーの畑でさつま芋を作り、高知県立大学の文化祭で販売するアイスクリームの材料として提供した。

## ■まさかの中止

今年で5回目を迎えたごめんな祭は、生憎の雨と雷注意報が発令されていた為、中止となった。前日まで晴天で設営準備していただけに、残念でならない。楽しみにしていたお客様から問い合わせの電話が当日の昼過ぎまでかかってきたそう。



## ■ごめんなさい神社でお焚き上げ

5月31日は語呂合わせで「ごめんなさいの日」にちなみ、吾岡山(謝罪の聖地)にごめんなさい神社を設置。ごめんな祭で出来なかったあやまり短冊を、家族や知人に書いてもらい100枚の短冊が集まった。当日は朝から雨が降っていたが、11時過ぎから奇跡的にやみ、神事とお焚きあげを行った。

## ■その他の活動

このほかにも、著名人を迎え南国市の活性化を話し合う「ごめんなさい市民会議」を定期的開催。土佐のおきやくでは、「出張! 何でもごめんなさい」を行うなど、南国市内外の祭りやイベントにも参加して積極的にPR活動を行っている。

## ■あなたは誰にあやまりたいですか?

「ごめん。ごめんね。ごめんなさい。すいませんでした。申しわけない。」謝罪の言葉は数あれど、実はあやまる時に人は試されている。世間はいざというときのその人のあやまり方をよく見ている。ここからのごめんなさいは失われかけた誠実さ・正直さ・素直さを回復する。ごめんの手カラで未来を開く!



くげ ひろなお  
久家大尚実行委員長がモデルとなった  
顔出し謝罪パネルは来年の披露となった

## ■取材を終えて

本日は第5回ごめんな祭を誌面に載せる予定が中止となり、ごめんなさい神社であやまり短冊のお焚きあげを行うと聞き取材に出かけた。私も短冊に「家事・炊事を母に任せっきりでごめんなさい」と書き奉納した。

(11/15)

## 聴覚障がい者のためのもう1つの手段！

### 要約筆記とは？

4月22日にイオン高知旭町店で特定非営利活動法人要約筆記高知・やまもも（以下やまももとする。）が主催する要約筆記を体験するイベントが行われた。

「要約筆記」とは、聞こえの不自由な方の社会参加支援をする活動だ。

今回は、やまももの松谷朝美さんと門田民世さんにお話しを伺った。

#### ■要約筆記とは？

やまももの「要約筆記」は聴覚障がい者（中途失聴者・難聴者）のコミュニケーションツールのひとつで、話しの内容をつかみ文字にして伝える活動だ。

1960年代に考案され、現在は手話通訳と同様に福祉サービスとして利用されている。

方法としては手書きとパソコンの2種類で、表示方法はプロジェクターでスクリーンに映す全体投影とノートタイプの2種類ある。全体投影では、手書きもパソコンも5人1チームで行う。ノートタイプは利用者1〜2人の場合に手書きをするノートを見て



実際の全体投影の様子

もったり、入力したパソコンを見てもらう方法だ。この場合は2人1チームで現場に向かう。最近では遠隔情報保障といわれる、インターネットを利用し、スマートフォンで情報を提供するシステムも導入されており、県外では冠婚葬祭や観光、教育現場などで利用されている。

#### ■体験してみた！

今回のイベントでは、手書きとパソコンでの要約筆記を体験した。

聞いたことを書く作業だがとても難しい。聞いた内容を一言一句書くことはできないのでまとめて書くかと思うが、考えながら文章を書くのは大変だった。

誰にでもできそうなことだが、実際に体験してみると訓練が必要な作業だと実感した。

この技術を習得するには、毎年開講している「要約筆記者養成講座（高知県委託事業）」を87時間受講し、その後、認定試験に合格し晴れて高知県登録要約筆記者となることができる。今年、高知県立大学社会福祉学部の学生15名を含む19歳〜70歳台、約40名が受講しており幅広い年齢の方たちが一緒に要約筆記者を目指しているところだ。

#### ■最後に

私はこれまで聴覚障がい者のコミュニケーションは手話というイメージしかなかった。松谷さん

も取材の中で「手話と同じくらいの知名度を目指している。聴覚障がい者は、手話のみという常識を変えたい」とおっしゃっていた。

最近依頼が増加しており、特に要約筆記のスクリーン投影は1回につき5人で行う作業なので人手不足が深刻で、派遣の依頼があった場合メンバーを揃えるのに苦労しているそうだ。

聴覚障がい者の方の選択肢を1つでも多くするため要約筆記がこれからの皆さんの人に知られ日常で利用される活動になればと思う。

#### ■要約筆記 高知・やまももさんから

多くの方に利用される活動になるために、要約筆記者として支援できる方がもっと増えてほしい。

（大久保



4月22日のイベントの様子  
（高知市まちづくりファンド助成事業）

## 「自分らしい生き方を考える」場、貸します！ ～コリビングスペース OUCHI～

5月16日、「コリビングスペース OUCHI」(以下、OUCHI)にて、OUCHIの運営を行う「OUCHI合同会社」が主催となり、「ラクガキ・ワークシヨップ」描いて「わたし」を知り合おう」というイベントが行われました。

### ■あなたの・わたしの人生を知る

今回の参加者は12人で、3人ずつのグループに分かれています。

最初にスタッフの高橋萌瑛さんが似顔絵の描き方をレクチャーしました。それをもとに、似顔絵を含めて自由に自己紹介シートを作り、グループ内で発表します。それぞれ個性的な絵で、会話が弾みます。



▲自分の顔の特徴を考えてみる

次に人生グラフを作ります。人生のターニングポイントを点で書き入れ、線でつなぎます。一転して静かになり、みなさん真剣に振り返っているようです。共有は、話し手・聞き手・描き手に分かれて行います。描き手は、文字だけではなく絵を使ってメモをとります。初対面の人の人生なのに、興味津々で聞き入っています。

過去を振り返ったあとは、1年後の「わたし」を想像します。人生グラフの続きを考える作業で

す。最後に、全体での共有と振り返りを行いました。

イベントを終えて参加者からは、「描くことが楽しいので、つらいこともポジティブに振り返ることができた」「自分の新たな一面に気づいた」「つらかった経験も今の自分につながっていると考えるようになった」などの声がありました。



▲グループ内で共有

に、選択肢を知らない人が多いので「自分らしく生きること」を考えられる場を作りたいと思ったからです。

「なぜ、このような形で思いを実現したのですか?」  
「あくまでも提案はせず、選択肢を示すことが目的だからです。高校生がイベントを開き、自主的に「考える場」を作ったときはとても嬉しかったです。」

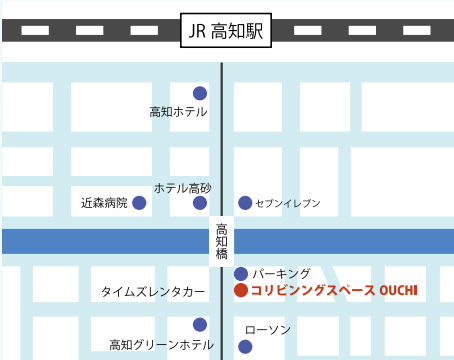
「最後に一言、お願いします!」  
「とにかく自由なスペースです。おしゃべりだけでもOKなので、気軽に来てください!」

私は今回の取材で初めてOUCHIに伺いました。明るくてあたたかい、本当にリビングのようなスペースです。勉強に集中したいとき、誰かと話したいとき、行ってみようかな。

(高知大学人文学部 鈴木彩野)

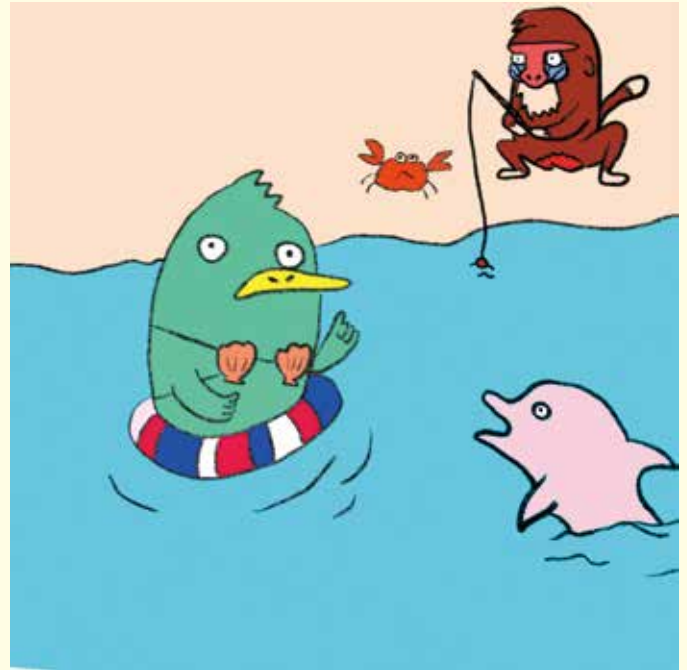
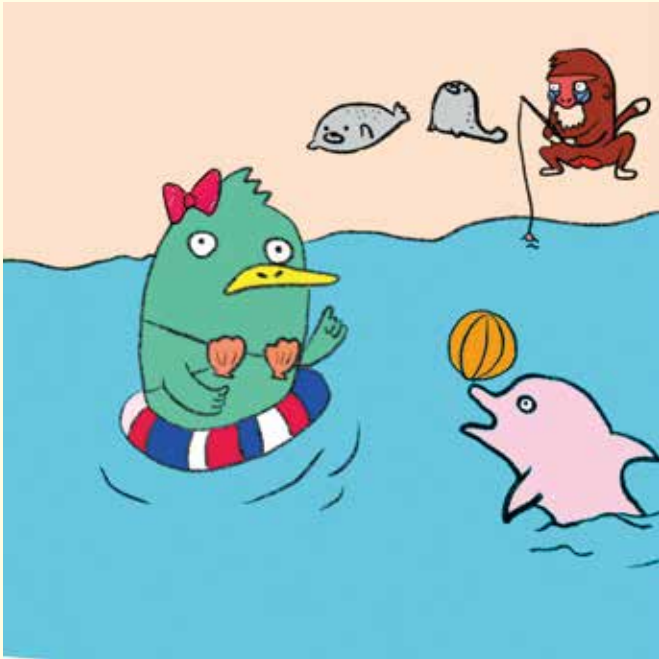


▲ OUCHIプロジェクトの皆さん



# まちがいさがし。

5つの間違いを見つけよう！



カモノハシのかもちゃんは、海水浴にやってきたよ！  
かわいいお友達が出来てとてもハッピー！

答えは高知市市民活動サポートセンターのホームページに掲載中。  
URL : <http://www.kochi-saposen.net/>

#編集スタッフの

## つぶやき



@のむ

最近俳句の種探しをしている。そうすると、いい事悪い事悩みも種になり、俳句にすると気にならなくなる。種探し、してみませんか。



@もうり

最近ある方の原画展に行きました。原画の写真撮影、SNSへの投稿が許可されていて驚きました。スマホの影響で色々なものが変化しているんだなあ。



@有光

大学三年生になり、就職活動に関して周りから色々な話を聞くが、どうも自分事として考えられておらず、周囲の動きを見て焦っている。



@横田

夏の悩みは虫。刺されやすい体質の私には苦痛。刺しはしないが蜘蛛も苦手。益虫というが、もう少し愛嬌のある姿なら耐えられるのに！

発行

高知市市民活動サポートセンター

企画編集

認定特定非営利活動法人  
NPO高知市民会議 広報部会

〒780-0862 高知市鷹匠町2丁目1-43 高知市たかしょう庁舎2階  
月～金/10:00～21:00 土/10:00～18:00(日・祝日は休み)

TEL : 088-820-1540 FAX : 088-820-1665

E-Mail : [info@shiminkaigi.org](mailto:info@shiminkaigi.org)

WEB : <http://www.kochi-saposen.net/>

この冊子は再生紙を使用しています



@みやわき

9年ぶりの引っ越し。狭い部屋のはずなのに物が溢れてさあ大変。ことさら本は仕分けしながら読み込んでしまい作業が進まぬ……。



@四宮

今年もやってくる夏。暑いのが苦手だ。脱いでも脱いでも、裸になっても暑いものは暑い。冬もキライだ。春→秋→春→秋→春→秋の世界へ行きたい。



@おおの

季節ごとのイベントに参加することは出来ないけれど、おすす分けしていただいた野菜で季節感を味わう今日この頃。